

様式第7号（第8条関係）

令和4年 9月 12日

（あて先）三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 三鷹民主緑風会 代表者名 谷口 敏也

1 観察年月日	令和4年7月20日（水）～令和4年7月21日（木） ( 1泊 2日)
2 観察者氏名	谷口 敏也 <u>高谷 真一郎</u> <u>岩見 大三</u> <u>小幡 和仁</u> _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ 計 4人
3 観察先及び 観察項目	(1) 秋田県 上小阿仁村 ア、自動運転サービス「こあにカー」
	(2) 秋田県 北秋田市 ア、障がい者施設「愛生園」：(社会福祉法人)秋田県民生協会運営
	(3) 青森県 五所川原市 ア、太宰治記念館「斜陽館」
	4 観察結果等 別紙の通り



令和4年7月

## 三鷹市議会民主緑風会 会派視察報告書（秋田県上小阿仁村）

報告者 高谷 真一朗

視察日 • 令和4年7月20日

視察先 • 秋田県北秋田郡上小阿仁村

視察項目 • 道の駅「かみこあに」を拠点とした自動運転サービス長期実証実験について

### はじめに

今回、視察先に上小阿仁村を選んだ理由についてですが、令和元年当初に村が実証実験を行った際に興味を持ち視察したいと考えておりましたが、新型コロナウィルス蔓延の影響を受け行動制限が掛かり、願いが叶わない状況がありました。

しかし、現在でも村は実験を継続しているとの報道番組を見て、ならば是非現地で実験の成果と現状をお聞きしたいと考えた事が今回選定させて頂いた理由となります。

#### ・上小阿仁村の概要

面積 256.72 km<sup>2</sup>

総人口 1,935人 (推計人口、2022年6月1日)

人口密度 7.54人/km<sup>2</sup>



#### ・愛称「こあにカー」導入の経緯

平成29年の短期実証実験を終え、平成30年度から全国に先駆け長期実証実験を行う事となった道の駅「かみこあに」を拠点とした自動運転サービス、愛称「こあにカー」は、少子高齢化の進行が著しい上小阿仁村における住民の移動手段確保にとって重要な施策となっています。

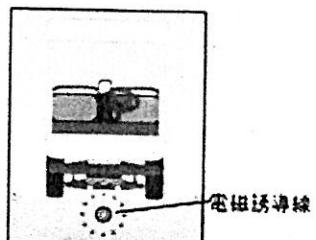
上小阿仁村の高齢化率は53%と、全国で高齢化率が一番高い秋田県(37.28%)の中でも最も高い村であり、言い替えれば日本で一番高齢化率の高い地域のうちの一つです。こうした中、上小阿仁村は交通弱者の増加で外出不足や運動不足、人との交流が無くなり肉体的・精神的な健康が維持出来なくなる事を危惧し課題解消に取り組みました。



(有償ボランティアによる運転の様子)



(画像右はHPより抜粋)



・こあにカーの運営体制等

NPO 法人 上小阿仁村移送サービス

サービス内容 高齢者の移送・農産物や日用品の配送

運賃 200円

運行時間 平日 9時～16時 土日祝 9時～16時

定期便 午前1便

自動運転車両：定員7名 速度：12km/h程度

運転手 地元の有償ボランティアが対応。

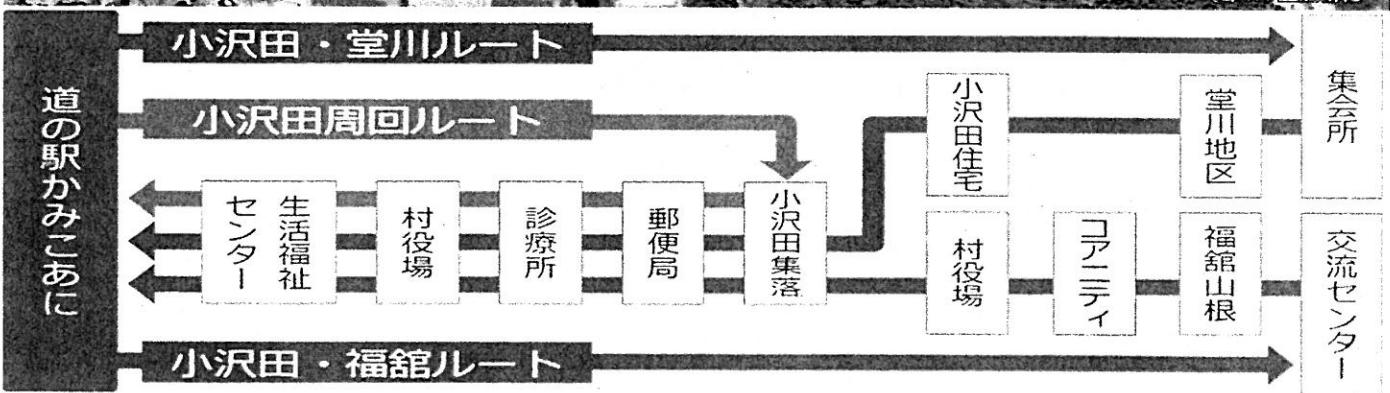
走行中乗車はするがハンドル等操作せず運行を監視

運行ルート 3ルート

小沢田・堂川ルート（往復5km、43分）

小沢田・福館ルート（往復4km、35分）

小沢田周回ルート（往復1.9km、20分）



(画像はHPより抜粋)

## ・もう一つの移動手段

上小阿仁村には自動運転を導入する以前の平成 17 年から NPO 法人の移送サービス協会が移動手段として有償運送を運営しており、村民の足として定着しておりました。会員登録者は約 100 名で、運転者（協会会員）約 10 名とその持込み車両により運行、年間延べ約 400 人に利用されており、中でも村外（鷹巣等）への通院利用が約 8 割となっているそうです。

運行期間 祝日を除く月曜日から金曜日の 9 時から 17 時まで。

利用料金 村内（一人利用の場合）600 円

村外（一人利用の場合）片道 1,600 円、往復 2,400 円

※別途年会費 800 円、入会金 200 円

上小阿仁村は、この有償運送と自動運転車「こあにカー」の 2 本柱で村民の移動手段を確保されておりました。

## ・現在の「こあにカー」の状況

現在、利用者の利便性に合わせ、こあにカーのルート運行は限定的だそうです。

実験の効果測定の結果だと受け止めましたが、現在は予約を入れると近くの停留所まで迎えに行くとの事でデマンド交通の側面が強いと感じました。

私たちのもう一つの心配は、雪道での運行の危険性でしたが、積雪地域における円滑な走行可否の検証、リアルタイムの車内映像や位置情報により、運行管理センターで運行のモニタリングをされているなど様々な対策を取られ、現在まで無事故で運営していました。



(画像はHPより)

積雪状態での走行検証

運行管理センター（道の駅 情報提供施設内）

技術面においては、運行ルート上に電磁誘導線を埋め込むそうですが、その費用は高額ではなく、むしろ車両本体のバッテリーに費用が嵩むとの事でした。

## ・まとめ

上小阿仁村では条件付きで無人走行の出来るレベル 4 の区間が 1 km ありましたが、これは地域の了解を得て一般車両の進入を規制した直線道路でした。

それ以外は有人での走行が可能なレベル 3 でしたが、技術の進歩により完全自動化であるレベル 5 の運行が普及すれば、現在三鷹市が計画している三鷹台～明星学園ルート（仮称）においても応用出来ると考えました。

いずれにしても、今回視察させて頂いた秋田県上小阿仁村の「こあにカー」が先駆的に取り組まれたこの事業は、その事業手法も合わせ全国の良き先例として広がりを見せ、交通不便地域と合わせて人手不足をも解消する事を期待させる視察となりました。

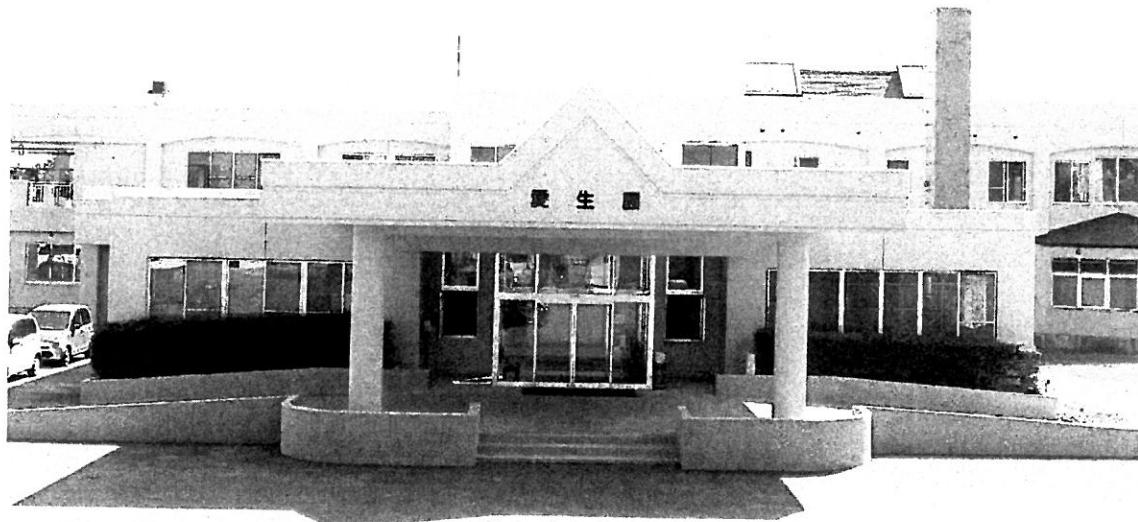
## 民主緑風会 会派視察 報告書

視察日：7月20日（水）

視察先：秋田県民生協会 障がい者支援施設 愛生園

秋田県北秋田市上杉字金沢240

視察項目：障がい者支援施設「愛生園」の障がい者施策及び  
運営状況



### 概要・沿革

【設置の目的】利用者個々の人権に配慮し、「かけがえのない存在」

として家庭に近い環境で、可能な限り社会経済活動に参加できるよ

う、日常生活介護・家事等の相談、助言、創作・生産活動の機会を提供いたします。

【経営の主体】

社会福祉法人 秋田県民生協会

【沿革】

昭和 40 年 10 月 1 日愛生園開設(定員 50 名)

昭和 41 年 8 月 20 日増築 25 名増(定員 75 名)

昭和 44 年 12 月 1 日増築 35 名増(定員 110 名)

昭和 51 年 2 月 1 日 四ツ葉寮開設・40 名増(定員 150 名)

昭和 52 年 12 月 1 日五葉寮開設・50 名増(定員 200 名)

昭和 56 年 12 月 1 日四ツ葉寮増築・30 名増(定員 230 名)

平成 6 年 4 月 1 日青葉寮改築 (定員 230 名)

平成 12 年 4 月 1 日四ツ葉寮高齢棟増築 (定員 230 名)

平成 23 年 4 月 1 日新体系に移行 (定員 227 名)

平成 28 年 4 月 1 日新体系に移行 (定員 227 名)

平成 30 年 4 月 1 日 定員数 210 名に変更(定員 210 名)

## 【敷地・建物】

敷地面積／82,074.90 m<sup>2</sup>

建物面積／ 6,686.24 m<sup>2</sup> (鉄筋コンクリート造 2 階建他)

### <視察概要>

広大な敷地の中に愛生園がある。その歴史は昭和40年に遡る。我々会派4名は秋田県民生協会の佐藤理事長と面談後、具体的な取り組みについて伺った。今回の視察の目的は55年に及ぶ障がい者施設運営およびその歴史からのノウハウの一端を学び、今後の三鷹市の障がい者施策に反映することである。愛生園は利用定員が210名の大型障がい者支援施設であり、男性96名 女性93名となっておりそのうち21名は障がいや健康状態により3寮に分かれて生活している。秋田県全域はもとより岩手県や東京都からも利用者を受け入れる。入所、通所関わらず利用者の個々の特性やニーズに沿った個別支援計画の立案、モニタリングにより支援のチェックを欠かさず行っている。障がいの重い利用者には自立目標を設定し本人の力を最大限引き出せる環境を整える。利用者の平均年齢は66歳を超え、高齢・重度化が問題となっている。都内ではこのような大規模施設は殆どないと思われるが、長年の取り組みから運営に関する自信が窺える。このような包容力のある施設運営は障がい者の肉体面のみならず精神面での健康状態を保つものとして参考になった。また認知

症や引きこもりなどの社会的課題に対応できる施設の在り方としてもヒントを  
頂いたと考えている。今後の三鷹市の障がい者等施設のあり方として参考され  
たい。

令和4年7月

## 三鷹市議会民主緑風会 会派視察報告書（青森県五所川原市）

報告者 小幡 和仁

視察日 • 令和4年7月21日

視察先 • 青森県五所川原市金木町朝日山412-1 太宰治記念館「斜陽館」

視察項目 • 太宰治記念館「斜陽館」の運営実態について

### はじめに

太宰治は三鷹市ゆかりの文学者であり、市は、市の観光名所として、太宰治文学サロンや桜桃忌の禅林寺、跨線橋（残念なことに老朽化した跨線橋は撤去する予定となっています）などに多くの見学者が市外からも訪れてくれることを期待しています。

一方、何度も女性と心中を試みた太宰治に対し、太宰が生きた当時の三鷹市民に、こころよく思わない感情もあったと伺っています。いったい、太宰治はどんなところで幼少期、青春時代を過ごしたのでしょうか。太宰治の人間像について、生誕地を訪問すれば、もう少し理解できるかもしれないと考える人も少なくないと思われます。

さて、三鷹市では、三鷹駅前再開発の方向性を示すなかで、「こどもの森」を中心とした公共公益施設内に、広場、イベントホール、図書館と共に、太宰治の文学施設を新たに整備することも検討しています。果たして、これ以上太宰治の施設が三鷹に必要なのでしょうか。

青森県五所川原市にある太宰の生家が「斜陽館」として観光名所になっていることから、その実態と経営状況について調査し、三鷹市の太宰治の施設展開の参考にするため訪問しました。

### ■国指定重要文化財太宰治記念館「斜陽館」概要

所在地 青森県五所川原市金木町朝日山412番地1

所有者 青森県五所川原市

構造及び形式 木造一部二階建て亞鉛鉄板葺

1階床面積 916.86 m<sup>2</sup>

2階床面積 383.41 m<sup>2</sup>



（斜陽館 令和4年7月21日 小幡撮影）

## ■太宰治の家族、幼少期など

太宰治の父、島津源右衛門は、元貴族院議員。豪農であり、金融業も営む。太宰治は、源右衛門の6男として育てられた。兄文治（3男）は、知事、衆議院議員。読書好きの太宰治は、成績優秀で金木第一尋常小学校、県立青森中学校、官立弘前高等学校、東京帝国大学仏文科に入学した。

## ■斜陽館の歴史

明治40年6月21日、島津家六代の源右衛門が当時経営中の金融業店舗を兼ねた住宅として竣工した。太宰治は、明治42年6月19日に誕生するので、まさに太宰治の生家である。島津家没落後、人の手に渡り旅館「斜陽館」として開業していた時代もあったが、旧金木町が買い取り、1998年4月17日、太宰治記念館「斜陽館」として開館した。「斜陽館」入館料は、個人一般600円。年間入場者数は、2020年に累計210万人を達成した。

## ■ヒアリング事項

- (1) 斜陽館の来場者を増やす取組みについて  
多言語音声ガイドの導入など、インバウンド対策を強化してきた。
- (2) おもなイベント開催内容について  
生誕100年祭、太宰治カフェ、古物などのインスタグラム、子どもたちによる読書感想文、学者を講師に文学講座開催などを企画運営している。
- (3) 斜陽館の運営収支について  
外国人の来訪者が多いが、太宰治人気ということではなく、五所川原市は雪が降ること、日本の昔を偲ばせる豪農の家は外国人の評価が高いことなどから、比較的外国人来訪者が多かった（コロナ前）とのこと。しかし、営業収支は、黒字から徐々に赤字化し、コロナ禍の現在は完全な赤字化になっている。
- (4) 太宰治に対する地元の評価について  
とても有名人であるとのこと。女性と心中をしたことによる批判的な見解は特に無い様であった。

## ■斜陽館を訪問して

斜陽館は、当時の豪農の家を偲ばせる立派な屋敷で、長男と次男以下を分けて育てる当時の風習を感じさせた屋敷でもあった。こんなところに太宰の鬱積した思いを感じることができた。また、館内には展示室があり、当時の書簡や写真、古物などが保管されており、とても見ごたえがありました。

斜陽館の運営は厳しい状況が窺えましたが、三鷹市と五所川原市が連携して観光誘致に取り組める要素もあると感じ、双方にメリットのある取り組みが期待できそうです。また、太宰の文学だけでなく、人間太宰にもっと焦点を当てた施設も面白いのではないかと視察を経て感じることができました。

以上